

# 令和 8 年度事業計画

自 令和 8 年 4 月 1 日  
至 令和 9 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

## 目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(7)
3. 編集委員会	(7)
4. 学術委員会	(8)
5. 統計調査委員会	(10)
6. 専門医制度委員会	(12)
7. 国際学術交流委員会	(13)
8. 評議員選出委員会	(14)
9. 保険委員会	(14)
10. 倫理委員会	(14)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(15)
14. 男女共同参画推進委員会	(16)
15. 感染対策委員会	(17)

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第71回日本透析医学会学術集会・総会は、兵庫医科大学内科学腎・透析内科 教授 倉賀野隆裕会長が主  
宰し、2026年6月19日（金）、20日（土）、21日（日）の3日間、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議  
場・神戸国際展示場・ワールド記念ホールを会場として開催する。

今回のテーマは「EMPOWER THE PEOPLE. 一腎代替療法に活力を一」を掲げて開催する。

#### <招待講演>

「New insights in uremic Toxins」, 「How Will USA Adapt Expanded Hemodialysis and On-line Hemodi-  
afiltration?」

#### <特別講演>

「我が国におけるCKD対策と緩和ケアの現状と政策の方向性」, 「チーム医療を用いたCKD厳格治療は予  
後を改善し透析導入を抑制する～チーム医療専用クリニック8年間を含む20年間の成績から～」, 「重症化  
予防と深化した共同意思決定（SDM）の推進に向けて」, 「12歳から50年間の人工透析 感謝の心を生き  
る力に」, 「AI・デジタル・ロボット技術が拓く未来医療」, 「透析患者における心血管系合併症 現状と予  
防～冠動脈疾患に関して～」, 「The Importance of Residual Renal Function in Hemodialysis Patients and  
Methods for Maintaining It」

#### <EMPOWER 特別講演>

「Empower with Weather！蓬萊大介スペシャルレクチャー」, 「Empower with Hand！島田秀平スペシ  
ャルレクチャー」

#### <会長講演>

「EMPOWER THE PEOPLE. 一腎代替療法に活力を一」

#### <教育講演>

「透析患者の心理尺度～自己効力感・自己決定・透析受容・満足度の適正な評価を目指して～」, 「洗浄・消  
毒剤誤混入による塩素ガス発生時の対応」, 「透析患者のフレイルを予防するためのオーラルマネジメン  
ト」, 「高齢者における栄養維持を考慮した透析療法」, 「腎移植の現状と今後～診療の現場から～」, 「腎疾  
患患者における眼科診療連携」, 「透析医療における臨床工学技士の役割」, 「透析患者の endovascular sur-  
gery」, 「透析患者、高度腎機能障害患者における感染症予防と適切な感染症治療」, 「ガイドライン目標値  
から外れてしまう患者の腎性貧血治療：赤血球造血の基礎からのアプローチ」, 「血液浄化療法膜のこれま  
での歩みを振り返る」, 「CKM症候群の視点からみたCKD患者の疲労・睡眠障害・自律神経障害の意義」,  
「腎移植の現行の問題点と今後の腎移植ガイド 日本透析医学会の立場から」, 「もしかしてこれってハラ  
ズメント?」, 「脳卒中領域における低侵襲治療～透析患者における包括的戦略～」, 「消化器癌に対する低  
侵襲手術の進歩」, 「患者参加型医療と共同意思決定～腎代替療法選択を超えて～」, 「泌尿器科領域におけ  
るロボット支援手術の現況」, 「慢性腎臓病診療における医療行動経済学」, 「透析施設における能登半島地  
震からの復興の現状」, 「基礎的な知見から HIF-PH 阻害剤の可能性について考える」

#### <合同企画シンポジウム>

日本腎臓学会：「増加する腎硬化症の疾患概念と治療について」

日本呼吸器学会：「透析患者における肺炎球菌ワクチン接種の意義と推進」

日本腎臓リハビリテーション学会：「透析患者の腎臓リハビリテーション 効果の検証と適切な再指導の  
タイミング」

日本血液透析濾過医学会：「HDFが普及した今日における適正な排水管理のあり方」

血液浄化AI学会：「AIを活用した次世代の透析・血液浄化を考える」

日本腎代替療法医療専門職推進協会：「腎代替療法の多様化と今後の展開」

## <シンポジウム>

「集中治療における新たなアプローチ (New approach for empower the critical care AKI patients)」, 「高齢腹膜透析患者をどう診るか—導入期から終末期まで」, 「アクセストラブル「いつ、何を伝えるべきか?」～VA 専門施設と維持透析施設の連携～ (狭窄, 感染・瘤, 穿刺困難, カテーテルトラブル)」, 「小児腎代替療法の最先端」, 「透析患者の言動から患者心理を考える」, 「新時代の CKD-MBD 管理」, 「腹膜透析の質向上にむけた多職種連携の取り組み」, 「至適デバイスの選択法」, 「アミロイドーシス診療ガイドライン 2025 を読み解く: 透析アミロイドーシスの新展開」, 「新しい概念を用いた透析患者の体液管理方法」, 「透析患者の糖尿病治療ガイド 2025 で臨床現場は変わったか?」, 「新たなエビデンスで慢性腎臓病に伴う貧血治療を再考する」, 「過去の被災体験を今に伝える」, 「透析医療の質と栄養状態を考える」, 「I-HDF のさらなる展開～IHDF を始めるために、さらに高めるために～」, 「透析患者の骨粗鬆症対策」, 「高齢者に起こる心のフレイルを考える」, 「透析患者総数減少時代における各種腎代替療法の対応」, 「次世代透析技術の最前線と臨床への展望」, 「最新の知見で糖尿病透析患者の ADL・生命予後を守る」

## <TSN-KSN-JSDT Joint Symposium>

「renal anemia」

## <ワークショップ>

「症例から考える腹膜透析トラブルシューティング」, 「透析患者における感染症」, 「腎不全期における多発性嚢胞腎の管理」, 「食事力 (食べる力) をつける栄養指導を考える」, 「VA 治療, 意思決定の岐路: エキスパートが語るコントラバーシャルな領域」, 「最新の基礎研究から将来の腹膜透析治療を考える」, 「多職種で考える透析患者のポリファーマシー」, 「透析医療における遠隔治療の現状と未来」, 「認知症透析患者の看護支援」, 「高齢化社会における在宅透析を考える」, 「低栄養/慢性炎症を合併した HD/オンライン HDF 患者に対する適正な透析処方を目指して」, 「たかがかゆみ, されどかゆみ—多職種連携で治療の質をさらに高めるために—」, 「地域で守る在宅透析患者」, 「CKD・透析患者に対するがん化学療法の実践マネジメント」, 「造血環境を考慮した腎性貧血治療を考える」, 「透析患者の遠隔リハビリテーション: 現状と展望」, 「高齢患者における腹膜透析を再考する」, 「新たな知見で透析患者の石灰化に挑む」, 「透析患者の抑うつ状態の多面的検証」, 「患者 QOL 向上に向けて生活目標の設定がもたらす影響」, 「透析患者における微量元素の動態・役割を再考する」, 「多職種連携で透析患者の足を守る～下肢末梢動脈疾患～」, 「多職種で考えるアフエレーシスの現状と課題」, 「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策～AI を活用する時代に気をつけること～」, 「患者送迎の現状と問題点」, 「これからあるべき透析の液組成」, 「透析患者の栄養状態を配慮したリン管理を考える」, 「カフ型カテーテルがもたらす明と暗を考える」, 「アフエレーシスの Minimally Invasive なバスキュラーアクセスを考える」, 「透析患者の心房細動マネジメント up to date」

## <International Workshop>

「International Exchange in Dialysis Hospitals」

## <パネルディスカッション>

「至適透析量の功罪」, 「透析廃棄物処理の現状と将来, Green dialysis よりの提言」, 「“その人らしい透析生活を支える” 多職種協働で創る未来のケア」, 「VA 感染症の管理と治療: 私ならこうする」

## <学会・委員会企画>

学術委員会 (医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会): 「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」

危機管理委員会: 「大規模地震時医療活動訓練の経験と課題」

統計調査委員会: 「JSDT 統計調査データを用いた臨床研究」

学術委員会: 「Year in review 2025」

学術委員会 (栄養問題検討ワーキンググループ): 「透析患者の栄養摂取に関する最新のエビデンス」

学術委員会（血液浄化に関する新技術検討小委員会）：「腎代替療法にグリーンな活力をもたらす新技術」  
学術委員会（透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会企画）：「ESKDにおける血圧管理」  
腎不全総合対策委員会：「高齢時代の腎不全対策」  
感染対策委員会：「透析患者における耐性菌と感染対策」  
保険委員会：「診療報酬令和8年改定内容に関して」  
総務委員会（VA血管内治療認定制度委員会）：「JSDT VA血管内治療認定制度に関して」  
統計調査委員会：「WADDAシステムの活用」  
総務委員会（医療DX推進小委員会）：「医療DXの現状と今後の方向性」  
学術委員会：「末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言」  
男女共同参画推進委員会：「TSUBASA PROJECT」  
危機管理委員会：「次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査」  
感染対策委員会：「透析患者におけるウイルス感染症の最新知見」  
国際学術交流委員会：「Disaster Preparedness for Dialysis Patients：Considering Everyday Measures」  
国際学術交流委員会：「The dialysis insurance systems in Asian countries」

#### <よくわかるシリーズ>

「『透析室におけるVA管理の秘訣を教えます!』」, 「血液透析患者のかゆみ～適切な治療介入と多職種連携の重要性～」, 「いまさら聞けないCKD-MBDの基礎と最新の話題」, 「透析患者の腸内細菌叢異常と治療介入」, 「透析患者における難治性細菌感染症の治療戦略 Up-to-date」, 「高齢者における腹膜透析の役割」, 「患者中心のCKD治療を目指すPDファーストの実践～多職種連携によるチーム医療で実現する「その人らしい生活」～」, 「地域連携の力で透析患者の歩行をあきらめない」, 「透析用カテーテルの特性を生かした選択と使用方法について」, 「心臓弁膜症に対するカテーテル治療」, 「有効かつ持続可能な腎臓リハビリテーションの展開」, 「腹膜透析患者の教育実態と今後」, 「糖尿病透析患者の全身管理を極める」, 「透析医療におけるAIの基礎～Attention is All Dialysis Needs～」, 「透析食は制限食か自由食か」, 「透析患者におけるカルニチンを再考する」, 「透析患者における悪性腫瘍の疫学的研究からの知見～全国レベルで行った前向き疫学研究の分析を中心に～」, 「高齢患者に優しい透析療法を再考する」, 「腎疾患患者の妊娠」, 「WADDAシステムでこんなことができる!～新しいCa, P基準値の達成率を計算してみよう～」, 「明日から始める透析患者の石灰化予防」, 「透析患者の尿酸管理～何のために、どのように～」, 「透析関連モニターを使いこなす」, 「今日から使える生成AI～臨床現場と日常生活を一変させる「副操縦士」の活用法～」, 「透析患者の栄養管理における考え方の変化～パラダイムシフト～」, 「透析膜生体適合性～基礎から臨床へ～」, 「新しいリンの管理目標値達成のための秘訣」

#### <その他>

医療安全講習会 教育講演2 「洗浄・消毒剤誤混入による塩素ガス発生時の対応」

医療倫理講習会 教育講演14 「もしかしてこれってハラスメント？」

感染講習会 教育講演9 「透析患者、高度腎機能障害患者における感染症予防と適切な感染症治療」

2026年7月1日（火）正午～7月31日（木）23：59まで（会期後オンデマンド配信）

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修

※医療安全講習会、医療倫理講習会、感染講習会は現地開催とオンデマンド配信、

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修はオンデマンド配信のみとなります。

詳しくは総会ホームページをご確認ください。

#### 2) 通常総会・臨時総会

(1) 第71回通常総会開催：2026年6月18日（木）16：00～17：30

(2) 臨時総会開催：2026年6月18日（木）17：30～18：00

(3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：2026年6月20日（土）13：40～15：10

### 3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2026年5月16日・6月18日・7月 日・12月 日・2027年3月 日

(2) 監事による監査会開催：2026年5月14日（木）

### 4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

### 5) 小委員会

#### (1) 情報管理小委員会（脇野 修委員長）

学会ホームページの円滑な運営、内容充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② コンテンツを見直し、逐次更新する。

#### (2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）

① 慢性腎臓病療養指導看護師（平成29年9月から施行）に関する助言と問題点への対策を行う。

② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

③ 管理栄養管理士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD分野）における助言を行う。

④ 日本サイコネフロジー学会が実施する、公認心理師制度における助言を行う。

⑤ 腎代替療法専門指導士の応募専門資格・資格更新については、日本腎代替療法医療専門職推進協会と引き続き協議を継続する。日本腎代替療法医療専門職推進協会に新規に参入希望の指導士資格に関しては、協議を推進する。

#### (3) 統計調査のあり方小委員会（友 雅司委員長）

① あらたな諸法の整備に適応して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。

② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。

③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査のIT化の方向性を模索する。

④ 統計調査データのWEB収集及びEDC（electric data capture）システムに関わる調査等を実施し、具体的な仕様をEDC推進検討ワーキンググループと合同で検討する。

#### (4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

① 委員会は年に2回、オンラインで実施する。

② 昨期に続き、第71回日本透析医学会学術集会・総会（令和8年6月、神戸市）に合わせて、日本での研修を実施する。ラオスから3名、モンゴルから2名の計5名の研修生は、日本透析医学会（3日間）参加の前または後に、4グループ（北里大学（モンゴル）2名、大阪公立大学（ラオス）1名、（医）北辰会（ラオス）1名、（医）田中泌尿器科医院1名）に分かれて研修を実施する。

③ 物価高騰に鑑み、研修経費（200万円）に50万円を追加申請する。

#### (5) 本学会のあり方小委員会（友 雅司委員長）

① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。

② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構、日本内科学会との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。

#### (6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）

- ① 2026年6月開催の第71回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
- ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、e-テストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加して既に生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のe-ラーニングでの単位は認定しない。
- ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴を可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。

(7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。

以下に示すガイドライン、診療ガイドラインの改訂等作業が関連のワーキンググループの中で進行中である。これらの事業は学術委員会とも連携しながら進めていく必要がある。

- ① 透析患者の糖尿病治療ガイド2025
- ② 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン
- ③ 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン
- ④ バスキュラーアクセスガイドライン追補
- ⑤ 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言
- ⑥ 透析患者の血圧管理に関する診療指針

(8) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）

台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会は、2026年度では日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3学会の年次学術大会を下記の通り開催する予定。

- ① 第71回日本透析医学会学術集会・総会（6月19日から21日にて開催予定、日本神戸）

テーマ：「Recent advances in management of renal anemia」

(1) 座長：

- 1. 日本透析医学会：倉賀野隆裕先生
- 2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
- 3. 韓国腎臓学会：Eun Hui Bae, Chonnam National University

(2) 演者・演題：

- 1. 日本透析医学会：小川千恵先生 前田記念病院武蔵小杉クリニック
- 2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
- 3. 韓国腎臓学会：Prof. Dae Eun Choi, Chungnam National University

- ② 韓国腎臓学会（2026年6月12日10：40～12：40開催、韓国ソウル）

テーマ：「Recent Advances and Emerging Issues in Hemodialysis

（血液透析における最近の進歩と新たな課題）」

(1) 座長：

- 1. 日本透析医学会：伊藤孝史先生 帝京大学ちば総合医療センター
- 2. 台湾腎臓医学会：台湾腎臓医学会が派遣
- 3. 韓国腎臓学会：韓国腎臓学会が派遣

(2) 演者：

- 1. 日本透析医学会：松原 雄先生 田附興風会医学研究所 北野病院

演題名：Malignancy in Hemodialysis Patients：Monitoring and Management  
(血液透析患者における悪性腫瘍：モニタリングと管理)

2. 台湾・韓国が担当

演題名：Atrial Fibrillation in Hemodialysis：Risks, Anticoagulation, and Clinical Outcomes  
(血液透析における心房細動：リスク，抗凝固療法，および臨床転帰)

3. 台湾・韓国が担当

演題名：Dialyzer Selection and Its Clinical Implications  
(ダイアライザーの選択とその臨床的意義)

4. 日本透析医学会：大武陽一先生 たけお内科クリニックからだ心臓の診療所

演題名：Depression in Hemodialysis Patients (血液透析患者のうつ病)

③ 台湾腎臓医学会 (2026年開催，具体的日時未定，台湾台北)

テーマ：未定

(1) 座長：

1. 日本透析医学会：未定 (日本透析医学会が派遣)
2. 台湾腎臓医学会：未定 (台湾腎臓医学会理事会が派遣)
3. 韓国腎臓学会：未定 (韓国腎臓学会理事会が派遣)

(2) 演者：

1. 日本透析医学会：未定 (日本透析医学会が派遣)
2. 台湾腎臓医学会：未定 (台湾腎臓医学会が派遣)
3. 韓国腎臓学会：未定 (韓国腎臓学会が派遣)

(9) VA 血管内治療認定制度検討委員会 (深澤瑞也委員長)

- ① 昨年度の VA 血管内治療認定医委員会の認定作業時に生じた，様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に，本年度の申請に関する改善点をまとめる．本年度の申請に対する条件を会員に可及的速やかに公表し，本年度の申請に向けての準備を行っていただくこととする．
- ② 申請作業は，既存の構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請，その後，抽出症例の提示を経て内容の審査を委員に依頼し判定を行う．専門医制度委員会審査において，個人情報保護法の遵守による審査強化を受け，当審査においても個人情報の取り扱いに関しては厳しく望むこととする．また生じた疑義に関しては，本年度の判定基準に基づき委員長が再審査し，最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行う．結果は理事会に報告し最終決定とし，本人に対して結果発表並びに認定証の交付を行うこととする．また本年度の申請においても，生じた問題点，疑義解釈に対しては，昨年度同様に委員会内で統一見解を作製し翌年度以降の委員会への申し送りを行う．
- ③ 初回登録者 (2023年4月1日～2028年3月31日) の更新手続きは，本来更新年度の前年度 (2027年度) に審査となるが，もし更新できなかった場合，資格が停止することで承認デバイスが使用できなくなるなどの不利益が生じる可能性がある．このため，1年前に初更新者のうち希望者に対して事前審査を行う予定 (委員会内で最終検討を行い公表する)．

(10) 医療 DX 推進小委員会 (菊地 勘委員長)

- 1) 透析施設における医療 DX および電子情報基盤 (EMR/EHR) の導入・活用状況に関するアンケート調査

2022年に日本透析医学会会員施設を対象として「透析情報システムの導入状況に関するアンケート調査」を実施し，透析部門システムおよび電子カルテシステム (electronic medical record：EMR) の導入状況を把握した．

その後，医療 DX を取り巻く環境は大きく変化している．2021年10月より，マイナポータルを通じて患者自身が薬剤情報および特定健診情報を閲覧できる仕組みが開始され，医療機関間での情報共有基盤の整

備が進展した。さらに、2024年度診療報酬改定において「医療DX推進体制整備加算」が新設され、電子健康記録(electronic health record:EHR)を活用した情報共有体制の構築が制度的にも推進されている。

前回調査から約4年が経過した現在、透析施設における透析部門システムおよび電子カルテシステムの普及状況、ならびにEHRの活用状況を再度把握することは、透析医療における医療DXの現状評価および今後の基盤整備・推進方策を検討する上で極めて重要である。

- ① 本事業では、日本透析医学会会員施設を対象にアンケート調査を実施し、
- ② 透析部門システムの導入状況
- ③ 電子カルテ(EMR)の導入状況
- ④ EHR基盤(オンライン資格確認、薬剤・健診情報閲覧等)の活用状況
- ⑤ 医療DX推進体制整備加算への対応状況

などを把握することを目的とする。

本調査結果を通じて、透析医療における医療DXの課題を明確化し、将来的な標準化・データ連携・災害時情報共有体制の構築に資する基盤整備の方向性を示すことを目指す。

## 2) 2026年の第71回日本透析医学会学術集会・総会における医療DX推進小委員会企画

セッションタイトル:「医療DXの現状と今後の方向性」

座長:

菊地 勘(医療法人社団豊済会 下落合クリニック)

阿部雅紀(日本大学 腎臓高血圧内分泌内科)

演者:

- ① 実臨床における医療DXの現状と透析医療DXの方向性

菊地 勘(医療法人社団豊済会 下落合クリニック)

- ② HL7 FHIRによる臨床検査データなどの標準化

岡田美保子(一般社団法人医療データ活用基盤整備機構)

- ③ 透析施設における医療DXの活用

宮崎真理子(東北大学腎臓内科学)

- ④ 医療DXの取組について

新畑覚也(厚生労働省医政局医療情報担当参事官付医療情報室)

## 2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって、一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

## 3. 編集委員会

### 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

(1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊をオンラインで発行する。

(2) Year in Review 2025の原稿を受け、2026年和文誌59巻のしかるべき号に掲載する。

- (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2026年和文誌59巻12号に掲載する。
  - (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）をSupplementとしてオンラインで発行する。冊子体の発行および郵送の廃止は継続とする。
  - (5) 年間1回を目安として特集号を企画する。また、Invited Reviewという形でその領域の専門家に依頼し、掲載していく。
  - (6) 2025年度からの完全オンライン化を継続する（2024年末で冊子体の発行を廃止した）。
- 2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について
- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で、CC-BY の著作権で引き続き発行する。
  - (2) 2023年6月に Journal Citation Reports (JCR) の Impact Factor を取得した。PubMed Central での Index 化の再申請を2023年中に行ったが、不採択の審査結果であった。2026年度内に再申請を行う。
  - (3) RRT 誌は下記の9学会の公式英文誌となっている。これらの各学会のガイドラインや報告レポートなどを Position Paper として順次出版する。
    - ・ Japanese Society for Dialysis Therapy (JSDT)
    - ・ Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT)
    - ・ Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)
    - ・ Japan Society for Blood Purification in Critical Care (JSBPCC)
    - ・ Japanese Society of Renal Rehabilitation (JSRR)
    - ・ Japanese Society of Nephrology and Pharmacotherapy (JSNP)
    - ・ Japanese Society for Pediatric Renal Failure (JSPRF)
    - ・ Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)
    - ・ Japanese Society for Technology of Blood purification (JSTB)
  - (4) すでに採用済の海外からの Editorial Member を Advisory Board Member として引き続き編集業務の関与を依頼する。
  - (5) Impact Factor 取得後、投稿論文数が増加した。そのため Editorial Member の増員が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦を依頼するとともに、独自にも Editorial Member (Associate Editor および Editorial Board) を採用していく。
  - (6) 第71回日本透析医学会学術集会・総会において、台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学会の3学会合同シンポジウムが、開催される予定である。その各国の講演内容を論文投稿していただくよう交渉する。
  - (7) 250編の投稿を目標とし、本邦以外の国と地域からの投稿促進努力を行う。
  - (8) 年間掲載論文の研究内容および英文の質の向上を追求する。その結果として、アクセプト率の低下も許容する。

#### 4. 学術委員会

- 1) 学会賞・奨励賞の選出
  - 選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。
- 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議
  - 学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。
- 3) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）
  - 課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査 (SUDACHI STUDY)
  - 大塚製薬工場との多機関共同臨床研究 (SUDACHI STUDY) を継続する。また、これまで得られたベ-

スライNDERデータの解析結果および最新の文献データを、第71回日本透析医学会学術集会・総会において、ワーキンググループ企画「透析患者の栄養摂取に関する最新のエビデンス」として発表予定である。

課題② 第72回日本透析医学会学術集会・総会でのワーキンググループ企画を検討する。

SUDACHI STUDYの進捗、透析患者の栄養摂取基準に関する文献的調査結果を、第72回日本透析医学会学術集会・総会で発表するため、ワーキンググループ企画を検討する。

4) 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループ(倉賀野隆裕グループ長)

慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドラインの原案を理事会に提出後、公聴会とパブリックコメントを経て、本年中にホームページ及び透析会誌に発表する予定である。

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ(脇野 修グループ長)

改訂ガイドラインを日本透析医学会雑誌に掲載するとともに英文化を行う。

第71回日本透析医学会学術集会・総会においてこれを学会員に広く公表する。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ(阿部雅紀グループ長)

「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」の英文版をRRT誌へ投稿する。これをもって本ワーキンググループは解散となる。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ(深澤瑞也グループ長)

シャント系、カフ型カテーテルの各班の意見集約、並びに素案の作成を行い、残りの班の素案をお互いに修正を行う。また現ガイドラインには大きく修正は行わないものの、現状にそぐわない点の修正・追記をまとめる。その後理事会承認、パブリックコメントへ回す。

8) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会(酒井 謙委員長)

作成委員会は、第69回日本透析医学会学術集会・総会において、第1回のOfficialな会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第19回までの議事が進行した。

主目的はCKM決定後の緩和ケアにおける具体的な医療とケアの実際を作り上げることにある。現行30数名の各代表(学会、協会、患者団体、弁護士等)で、各月1回の会議を経て、さらに理事会承認を経て、提言作成に向かい会議を継続する。CKMにおいてはKSCなどの新しい概念も入り、かつ2025年9月には関連3学会による腎不全患者の緩和ケアガイダンスも作成された。令和8年の診療報酬体系も定まれば、大きな進展を経て、社会に公表できると考える。

2024年度 文献調査 役割分担(研究協力員)、COI、提言タイトルの妥当性検討をした。

2025年度 提言各章文章作成して、第70回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第1回を行った。

2026年度 提言和文完成 第71回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第2回を経て、公聴会 パブリックコメントを得て、和文投稿へ。

2027年度 英文投稿へ。

9) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会(平和伸仁委員長)

1. 2026年末の統計調査委員会調査に向けた準備;対応可能な項目の申請等の検討と依頼

2. 臨床課題に対するCQに関して

(ア) 課題に関する定義やエビデンスの整理

(イ) とりまとめとSR可能なCQの選択

(ウ) SR体制の検討と募集

3. 第71回日本透析医学会学術集会・総会でのシンポジウム開催

4. 透析患者の家庭血圧における前向きコホート研究計画策定

5. 統計調査資料を用いた後ろ向き研究の研究計画策定

10) Green Dialysisに関する検討委員会(脇野 修委員長)

2025年3月14日に全体の対面委員会を開催後、各班薬物療法班(班長 脇野委員)と医療機器班(班長 友委員)で項目ごとに提言をまとめる。年2回の合同委員会をもとに最終的には第71回日本透析医学会学術

集会・総会で素案を発表する。

#### 11) 小委員会活動

##### (1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

1. Dialysis Therapy, 2025 year in review を第 71 回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画として開催を計画している。
2. Dialysis Therapy, 2025 year in review の各演者の先生に発表内容を日本透析医学会誌へ投稿依頼する。
3. 統計調査データを用いた公募研究の事前審査について  
2025 年より統計調査データを用いた公募研究の募集が再開された。学術専門部小委員会は 2025 年度に引き続いて統計調査解析小委員会と合同で事前審査を実施し、主に学術的な意義について審査を担当する予定である。

##### (2) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

1. 昨年に引き続き、第 71 回日本透析医学会学術集会・総会（令和 8 年 6 月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画「腎代替療法にグリーンな活力をもたらす新技術」で公表する。
2. 同じ方向性を持つ他学会（日本人工臓器学会、日本次世代人工腎臓研究会など）において、研究成果の積極的な公表に努める。
3. 学会からの活動資金の有効かつ公平な利用法についても検討する。
4. 令和 7 年度は多くの学会で発表の場を得たことで、委員会活動はオンラインで 1 回しか行えなかったもので、これを 2 回開催に戻す。

##### (3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との 3 団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行う。
- ② ISO・IEC 対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべく ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行う。
- ③ ダイアライザの機能分類等について、第 71 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画を開催する。

##### (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（鷺田直輝委員長）

###### ① 体験参加型セッションの開催

第 32 回日本腹膜透析医学会にて、医師・コメディカルスタッフの教育に関する体験参加型セッションの開催を計画している。

###### ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催を計画している。

2026 年度の第 71 回日本透析医学会学術集会・総会にて、医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題と題したセミナーを開催予定である。

##### (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

例年通りの方法で、令和 8 年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請の受付を行い、適切な応募研究課題の中から選考する。

##### (6) 透析医学用語集作成小委員会（脇野 修委員長）

ICD-10 から ICD-11 への変更への対応を行う。この変更に合わせて、関連学会を含め、用語変更について会議を行う。さらに各学術委員会で追加すべき新用語を提案頂く。

## 5. 統計調査委員会

### 1) 2025 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告

- (1) 2025 年調査結果を 2025 年学会誌 12 号に、英文報告書を RRT 誌に掲載する。
  - (2) 本学会和文、英文のホームページに調査結果を掲載する。
  - (3) 2025 年調査結果を統計調査データベース、WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。
  - (4) 調査協力いただいた非会員施設には、これまで「わが国の慢性透析療法の現況 CD-ROM 版」を作成し配布していたが、CD-ROM の発行を止め、学会ホームページ内の「統計調査」に関するサイトで閲覧いただく。
- 2) 2026 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
- (1) 2026 年末調査の新規調査項目を選定する。
  - (2) 2026 年末の調査計画について倫理委員会に審査を依頼し、承認後 UMIN に公開する。
  - (3) 全国の透析施設に対して 2026 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。
- 3) 学術研究用データ切出しシステムの改善
- (1) 学術研究用データ切出しシステムに、項目の自動指定機能を追加する。
  - (2) 学術研究用データ切出しシステム用サーバの計算領域と利用領域容量を増やす。
  - (3) 学術研究用データ切出しシステム用に、一部修正した 2000~2017 年データの再取込を行う。
- 4) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文化
- (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。
  - (2) 公募研究を行い、特に若手研究者の統計調査データを用いた研究への参画を進める。
- 5) レジストリ国際協調への課題の明確化（継続事業）
- (1) ISN 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR へ参加する。
  - (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化、JRDR の将来の改修方針の明確化。
- 6) 第 71 回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催
- (1) 統計調査委員会企画：1. WADDA システムの活用、2. JSDT 統計調査データを用いた臨床研究
- 7) 国内・国際協力の推進
- (1) 日本透析医会をはじめとした他学術団体、さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/ European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。
- 8) 学会ホームページ内の統計調査に関するサイトの充実
- (1) 日本透析医学会ホームページに「統計調査」に関するサイトを作成し、これまでホームページ内に点在していた統計調査に関する情報を集約して掲載する。入力用 Excel ファイルのダウンロード・アップロードシステムや集計結果の詳細等もこのサイトの中に設置し、内容の充実をはかる。
  - (2) 日本透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、英語版統計調査のホームページを充実させる。
  - (3) 英語版ホームページには英語版現況報告の PDF、英語版図説 PPT、統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 9) 会員インセンティブの充実
- (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため、地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
  - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。
- 10) WEB を活用した統計調査データの収集について
- (1) EDC の開発に関して EDC 推進検討ワーキンググループと連携し継続して審議を行う。
  - (2) 入力用 Excel ファイルのダウンロード・アップロードシステムについて、アクセス管理に関する仕組み

を改良する。

- (3) 入力用 Excel ファイルのダウンロード・アップロードシステムと会員管理台帳の連携システムの改良を行う。

#### 解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされる様々なテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- 4) 公募研究のサポート、進捗の確認を行う。
- 5) JRDR のデータを用いた研究を論文化する際に、研究計画と齟齬がないか確認を行う。

## 6. 専門医制度委員会

透析専門医は、大学病院や基幹病院へ集中する傾向が強い他領域の専門医とは異なり、全国の透析施設すべてに1名以上の勤務配置することを目標とする。基本知識・診療技術は勿論、手術・処置技術・倫理・医療安全・感染対策・災害対策などに対する総合的能力を身に付けることを第1義とする。内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により、患者ともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要である。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和は、腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて、補完研修ではなく独立した通常研修に該当すると考える。

- 1) 透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることとは別に、現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。
- 2) 生涯教育の一環として、全国を細則第2条の10地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。
- 3) 透析専門医は、日本内科学会と日本泌尿器科学会との透析領域別協議会（小委員会）で、基本領域専門医を透析医療と関連が深い横断的6領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）のサブスペシヤリティ領域として、専門研修カリキュラムを改訂（2027年）する。カリキュラム必要条件は100症例（必須60症例）、専攻医の主体的な研修の場が必要（診療部門）、かつ統一した試験問題が必要（機構要求）である。2025年のサブスペ領域懇談会であるが、2025年9月に機構が応募した質問（サブスペに対する）に対する本学会への回答を今だ得ていないので、領域別懇談会はできていない状況である。したがって現在、日本透析医学会では機構の変化に留意しつつ、機構からは距離を置いた姿勢に転じている。
- 4) 産前・産後の研修期間の短縮許可について審議したので、2025年から適応する。常勤医師の定義認定も、昨今の働き方改革によって、これを短縮し、2026年度以降から適応する。
- 5) 個人情報保護法抵触について、審査の対象となる旨、審議を重ねたが、その周知を徹底しつつ、専門医試験においては症例要約において厳格にこれを要求する（規則施行細則第23条に追記した）。
- 6) カリキュラム小委員会（平和伸仁委員長）では、2025年に専門研修トレーニング問題集および専門研修マニュアルの改訂発行をした。研修カリキュラム・プログラムも変更する。次回改訂は2027年を予定する。なおその試験問題の在り方に関しては、2026年3月に委員会内で審議をした。
- 7) 専門医制度の今後について  
委員会報告を行う予定（日本透析医学会および日本透析医学会誌）。
- 8) 各小委員会で整備した内容について検討する。

(1) 研修プログラム小委員会

- ① 基本領域専門医制度と連携した透析研修カリキュラム第5版の作成を検討する。

(2) カリキュラム小委員会

- ① 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。この「セルフトレーニング問題」は長らく紙媒体での往復書簡のやり取りであったが、2026年からは電子媒体で申請、回答、回答処理を行う。その費用支払い方法も2026年から変更をする。
- ② 学術集会・総会の教育講演オンデマンド視聴による単位認定のためのe-ラーニング問題についてのブラッシュアップを行う。

(3) 専門医認定小委員会

- ① 専門医と指導医の新規認定と更新を行う。
- ② 専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数、専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。
- ③ 地域偏在・施設偏在の解消のために、専門医数と施設数が少ない地域の基幹病院に調査を行い、立案した具体策について、偏在を解消する方策を個別に検討する。

(4) 専門医試験小委員会

- ① 2026年度専門医試験を適切な感染対策のもと実施する。
- ② 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を含む客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）と口答試験の3者の総合的な判断で行い、医師国家試験に準拠した試験問題作成基準を用意し、合否を決定する予定である。口頭試験検査官の体制はコロナ禍以降、2名体制であるがその仕組みは定着し、今後も1名の受験者に対して2名体制とする。
- ③ 専門医試験プール問題約800題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くする予定である。

(5) 施設認定小委員会

- ① 認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。
- ② 今後の透析専門医認定に備えて、専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成をさらに進める。施設認定においては、専門医不在などの問題について、厳に対応する。

## 7. 国際学術交流委員会

1) 第71回日本透析医学会学術集会・総会において下記の企画を予定した。

I. 特別講演：Prof. Kalantar-Zadeh Kamyar (Harbor-UCLA Medical Center) を予定。

The Importance of Residual Renal Function in Hemodialysis Patients and Methods for Maintaining It. (仮)

II. シンポジウム。以下の2つのシンポジウムを実施予定であり、すべて指定講演とした。

シンポジウム (1) : Disaster Preparedness for Dialysis Patients : Focusing on Everyday Measures.

シンポジウム (2) : The Insurance Framework for Dialysis Patients

III. 一般公演 (Free Communications)

例年通り、公募を行った。

IV. Farewell Reception

海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間

に Farewell party を開催予定である。

#### V. Travel Grant 等

シンポジストの招聘および Farewell Reception 開催などの予算の関係上 lower-middle income countries or low-income countries 10 万円, upper-middle-income countries or high-income countries は 5～7 万円となった。年齢制限等の条件については例年通りとなった。

#### 2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は予定していない。

#### 3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加する予定である。

### 8. 評議員選出委員会

評議員の任期は 2 年であるため、2026 年度は選出を行わない（2025 年度施行）。

### 9. 保険委員会

- 1) 今後も学会ホームページなどから会員の診療報酬の要望を受け付けることを継続する。
- 2) 令和 10 年度診療報酬改定に向けて具体的な要望内容を決定し、必要に応じて準備を進める。手術系であればタイムスタディー等も施行し適切な診療報酬の策定に向けての要望提出準備。
- 3) 日本透析医会とも緊密に連携を取り、診療報酬の適正化による会員の安定した利用提供に寄与するべく活動する。

### 10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して、随時、研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

### 11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者の QOL の改善、地域の問題などに焦点をあて、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2026 年度は高齢者の腎不全対策をテーマに、高齢透析導入や透析ケアの緩和医療の方向性、ポリファーマシー、高齢透析患者の看護について 6 名の演者に開設いただく予定である。

1. 高齢透析導入患者の予後 大分赤十字病院 宮崎慎也先生
2. 腹膜透析 聖マリアンナ医科大学 櫻田 勉先生
3. 高齢透析の看護 昭和医科大学認定看護師教育センター 三村洋美先生
4. ポリファーマシー 日高病院腎臓病治療センター 永野伸郎先生
5. リハビリテーション 偕行会名古屋共立病院リハビリテーション部 森山善文先生
6. 透析患者の緩和医療の方向性 東邦大学 酒井 謙先生

## 12. 危機管理委員会

### 1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理, 災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う.
- (2) 医療安全, 災害対策に関して, 日本透析医会, 日本腎臓学会, 日本腎不全看護学会, 日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する.

### 2) 災害対策小委員会 (山川智之小委員長)

- (1) 第71回日本透析医学会学術集会・総会 (2026年6月19日~21日, 神戸ポートピアホテル) において, 災害に関する危機管理委員会企画を行う. テーマは「大規模地震時医療活動訓練の経験と課題」とし, 以下の内容で行う. さらに, その内容を委員会報告としてまとめ, 透析会誌に掲載する.

司会: 鶴屋和彦, 山川智之

演題・演者

- 1) 北海道における大規模地震時医療活動訓練 札幌北楡病院外科 後藤順一
- 2) 青森県における大規模地震時医療活動訓練 青森県立中央病院泌尿器科 小笠原賢
- 3) 岩手県における大規模地震時医療活動訓練 岩手県立胆沢病院泌尿器科 忠地一輝
- 4) 宮城県における大規模地震時医療活動訓練 泉松会 木村朋由
- 5) 東京都における大規模地震時医療活動訓練 石川記念会 安藤亮一
- 6) 静岡県における大規模地震時医療活動訓練 浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部 石垣さやか

- (2) 第70回日本透析医学会学術集会・総会 (2025年) の委員会企画の発表内容を日本透析医学会誌へ掲載する.
- (3) 日本透析医学会の理事, 危機管理委員会, 統計調査委員会, 地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し, 災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する.

### 3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司小委員長)

- (1) 第71回日本透析医学会学術集会・総会 (2026年6月19日~21日, 神戸ポートピアホテル) において, 医療安全に関する危機管理委員会企画を行う. テーマは「次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査」とし, 以下の内容で行う.

司会: 鶴屋和彦, 満生浩司

演題・演者

- 1) 日本透析医学会の立場から 九州中央病院腎臓内科 満生浩司
- 2) 日本臨床工学技士会の立場から 善仁会 本間 崇
- 3) 日本血液浄化技術学会の立場から 神奈川工科大学臨床工学科 山家敏彦

- (2) 上記実態調査の内容を委員会報告としてまとめ, 透析会誌に掲載する.
- (3) 医療事故調査報告制度に協力団体として, センター調査などを担当する.
- (4) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し, 必要に応じて委員の更新を行う.

## 13. 研究者の利益相反等検討委員会

企業からの学会および学術集会に対する資金提供についての組織 COI 公開・開示について議論を進める.

## 14. 男女共同参画推進委員会

### 1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況，展望についての論文が掲載されたばかりであり，今年度は問題点などの情報共有などを行う。

### 2) 小委員会

#### (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれの働き方について各学会の経緯と現状と検討する。

#### (2) 女性医師育成小委員会

##### I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT」について

第71回日本透析医学会学術集会・総会において，学会・委員会企画7として，「TSUBASA PROJECT」を開催する。

・TSUBASA PROJECT 賞6題の中から優秀演題賞3演題を選出する。

##### II. 第11回「TSUBASA PROJECT」について

第11回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励，援助し，それによって透析医療の向上，女性の活躍を推進させることを目的とし，優れた研究に対して研究助成を行うものである。

#### 第11回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT賞として応募された抄録から，優れた演題6件を選出する。抄録は日本語，800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い，理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行する。

① 応募研究：透析医療に関する基礎研究，臨床研究，未発表論文であること。

抄録は日本語，800文字まで（抄録の最後に文字数を記載すること）。

背景，目的，方法，結果，考察を記載すること。

文字カウントは，日本透析医学会学術集会・総会の演題募集要項に準じる（スペースは1文字の扱いとする。半角文字は1/2文字として数える。アルファベットは半角英数の扱いとなる。）。

② 応募資格：日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師

＜他機関の助成中，または助成を受けている場合は当研究の申請は認められない＞

過去にTSUBASA PROJECT賞の受賞歴のある場合は，受賞回，題目について記載すること。

③ 応募演題：6件まで

④ 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として，1件につき10万円を授与する。

⑤ 優秀演題賞：選出した6件の発表内容から，さらに優秀な3演題を選出し，特別研究助成10万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い，理事会の承認を得る。

⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT賞で選出した6件が，2年以内に英文論文化した場合には（日本透析医学会の英文機関誌Renal Replacement Therapyへの投稿を推奨する），30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお，論文化に際してTSUBASA PROJECTの助成を受けたことに対する謝意を明記すること。

※注意：論文化支援助成金申請のためには、研究に係る支出（研究費、英文校正、論文投稿料など）に関する領収書の提出が必要となりますので、領収書の保管をお願いします。

⑦ TSUBASA PROJECT 賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

※応募方法については、第72回日本透析医学会学術集会・総会のホームページに掲載されますので、しばらくお待ちください。

一般社団法人日本透析医学会

理事長 友 雅司

男女共同参画推進委員会委員長 西尾 妙織

### Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第71回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。

### Ⅳ. TSUBASA PROJECT 賞を獲得した女性医師のその後の調査

今年で TSUBASA PROJECT は10年を迎える。これまで受賞した女性医師がその後、どのように活躍しているかのアンケートを行い、ホームページに掲載する。内容によっては論文化も検討する。

## 15. 感染対策委員会

1) 透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケートの調査結果について

2025年度に実施した「透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート」の調査結果について、統計学的解析を行い、査読付き国際学術誌へ原著論文として投稿する。

2) 2026年の第71回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画

第71回日本透析医学会学術集会・総会では、日本呼吸器学会との合同企画シンポジウムと2つの感染対策委員会企画を行う予定としている。

合同企画シンポジウム 日本呼吸器学会・日本透析医学会 合同企画

セッションタイトル：「透析患者における肺炎球菌ワクチン接種の意義と推進」

座長：

菊地 勘（日本透析医学会，医療法人社団豊済会 下落合クリニック）

大石和徳（日本呼吸器学会，富山県衛生研究所）

演者：

1. 成人肺炎球菌感染症の現状と肺炎球菌ワクチンによる予防

中村茂樹（日本呼吸器学会，東京医科大学 微生物学分野）

2. 透析患者における肺炎球菌ワクチン接種の意義

吉藤 歩（日本透析医学会，慶應義塾大学感染症学教室）

3. 肺炎球菌ワクチン接種率向上に向けたエビデンスと実践

永井英明（日本呼吸器学会，国立病院機構 東京病院）

感染対策委員会企画

セッションタイトル：「透析患者におけるウイルス感染症の最新知見」

座長：

菊地 勘（医療法人社団豊済会 下落合クリニック）

竜崎崇和（東京都済生会中央病院）

演者：

1. 肝炎ウイルスの現状と対策  
菊地 勘（医療法人社団豊済会 下落合クリニック）
2. 透析患者における帯状疱疹の疫学と予防戦略  
平山浩一（東京医科大学茨城医療センター）
3. RSウイルス感染症の最新知見と対策  
吉藤 歩（慶應義塾大学）
4. ノロウイルスの現状と対策  
美島路恵（東京慈恵会医科大学附属病院）
5. COVID-19・インフルエンザの現状と予防～日本透析医学会 感染対策委員会アンケート調査を踏まえて～  
吉藤 歩（慶應義塾大学）
6. 新興感染症のパンデミックにどう備えるか  
石金正裕（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター）

セッションタイトル：「透析患者における耐性菌と感染対策」

座長：

- 安藤亮一（医療法人社団石川記念会）  
吉藤 歩（慶應義塾大学）

演者：

1. 透析室における感染対策の基本  
谷口弘美（医療法人財団松圓会 東葛クリニック病院）
2. 透析患者における MRSA  
上原由紀（順天堂大学医学部 臨床検査医学科／総合診療科）
3. カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CPE）  
原田壮平（東邦大学医学部 微生物・感染症学講座）
4. クロストリディオイデイス・ディフィシル感染症  
増谷 瞳（慶應義塾大学病院 感染制御部）
5. 抗菌薬の適正使用  
森兼啓太（山形大学医学部附属病院 検査部・感染制御部）